

【多文化共生2】

言語・方言の旅へ

「言語・方言を題材に世界・自身の暮らす地域を多角的にとらえる」

【実践者】

氏名	渡邊 千尋	学校名	東京都立新島高等学校
担当教科等	外国語（英語）	対象学年（人数）	2年1組（10名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2024年10月4日（2時間）、3月（2時間）		

実施概要

01 実践する教科・領域

外国語・英語コミュニケーションⅡ

02 単元名と単元目標

単元名：言語・方言の旅へ 「言語・方言を題材に世界・自身の暮らす地域を多角的にとらえる」

単元目標：

（前半2時間）言語の持つ影響力を自覚し、言語活動を通して世界を多角的にとらえる。諸外国を知ることから、自身が使う・学ぶ言語に着目し、言語について対話を通して考える。

（後半2時間）前半の日本を俯瞰的にとらえ、諸言語について考えた視点をもとに、新島・式根島の方言について多様な視点で考え、方言の意義について考えとともに、新島の魅力を再発見する。

関連する学習指導要領上の目標：

*外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」を働かせ、5つの言語領域における言語活動及びそれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考え方などを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

*外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」は、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること」をいう。

03 単元の評価規準

① 知識・技能	与えられた英文を理解し、正しく情報を読み取ることができる。
② 思考・判断・表現	与えられた英文に対し、自身の意見を整理し、伝えることができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言語が持つ影響力について理解を深めるとともに、言語学習者として言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。 方言の価値について理解を深めるとともに、対話を通して他者や社会に関わろうとしている。

04 単元設定の理由・単元の意義

JICA 教師海外研修に参加し、他の参加者との対話と通し、改めて「教師の役割」について考える機会が多々あった。その中で、英語教員として自身の今までの経験や、本研修での学びを内在化させ授業実践を行いたいと思った。今回、パラグアイに渡航し、英語が全く通じず、相手の言っていることがわからず、自身の意図を直接伝えられないという状況があり、改めて言語の存在意義や重要性について考えることとなった。

また、パラグアイではスペイン語と先住民の言語であるグアラニー語が公用語になっている。パラグアイ人のアイデンティティを構成する文化の多くがグアラニー語起源であり、言語とアイデンティティの関係について考えた。さらに、イグアスで多くの日系の方々と言語とアイデンティティの継承について話をうかがった。

言語についてジブンゴトとして考えるために、生徒が学んでいる英語について考えるだけでなく、諸言語について多角的に考える視点をもとに地元新島・式根島の方言についても考え、普段とは異なる視点で新島・式根島の魅力を再発見してほしいと思い今回の単元を設定した。

〈児童/生徒観〉

2 学年：生徒 10 名中、新島出身が 6 名、式根島出身が 2 名、他 2 名が島外留学生である。生徒同士は大変仲が良く、対話等も活発に行える。英語の能力については個人差が大きい。そのため、お互いが教えあえるようなグループ、ペアワークの設定が必要である。

〈指導観〉

本研修を通して物事を多角的な視点で考えることの重要性とその考えを相手に言語化して伝えることの意義を学んだ。特に、「島」という環境で生活している生徒たちであるため、自分の当たり前が当たり前でないという認識を常に持ち他者と関わってほしいと思いこの題材を扱った。

また、活動中心の授業にし、対人での発表や学び合いができる活動を多く取り入れ、集団活動から得られる学習効果を最大化することをねらいとしている。

05 単元計画（全 4 時間）

	小単元名	学習のねらい	学習活動
1 本時	世界の言語事情	言語活動を通して、日本を俯瞰して見る ことにより、自分の当たり前は世界の当 たり前ではないことを再認識する。	・ 言語クイズ ・ ジグソー法
	資料・教材など	パワーポイント、プリント	
2 本時	言語を学ぶというこ と	言語を使い広がる可能性について考え る。	・ グループディスカッション ・ 振り返り
	資料・教材など	パワーポイント、プリント	
3	方言の継承について	言語についてジブンゴトとして考える。 方言を残すことの意味について考える。	・ ゲストスピーカー ・ グループディスカッション
	資料・教材など	パワーポイント、プリント	
4 本時	方言についてのアウ トプット活動	自身の考えを行動に移す。 発信したことによる反応を体感する。	・ グループ活動

			・新島・式根島の方言を知ってもらえるものを日本語・英語で作成する（デジタルパンフレット、SNSでの発信、フライヤー、QRコード等）
	資料・教材など	パワーポイント	

06 本時の展開（1～2 時間目）

本時のねらい：

1 時間目：言語活動を通して、日本を俯瞰してみることで、自分の当たり前は世界の当たり前ではないことを再認識する。

2 時間目：言語を使い、広がる可能性について考える。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）
導入 (15 分)	○本日のねらいの共有 ○言語クイズ ①本時に必要な語彙のインプットと定義の確認（母語、公用語、共通語など） ②世界にはどれくらいの言語があるか、諸言語の使用割合など	生徒への指示、質問等は基本的に英語で行うが、生徒の理解に応じて日本語も使用する。
展開 (40 分)	ジグソー法（3 グループ） 説明 5 分、個人活動 5 分、エキスパート活動 7 + 3 分、グループ内の情報共有 $3 \times 3 = 9$ 分、意思決定 5 分、全体共有 5 分 「自身が韓国人という設定で、後輩に留学を勧めるなら、日本・パラグアイ・マレーシアの中からどの国を勧めますか？一つ選択してください。」 まずは個人で考える。その後、各国のエキスパート活動をし、3 カ国の情報をグループ内で共有する。	エキスパート活動では教員 + JET 2 名で各グループを担当し、語彙等の支援を行う。 生徒間の複雑なコミュニケーション活動は日本語で行う。
2 時間目 展開① (40 分)	3 カ国の実情を通して言語について多角的に考える。 (各国のシートに書かれている情報を参照) ・様々な視点から考える（15 分） ・パラグアイについて（5 分） なぜパラグアイではスペイン語とグアラニー語が公用語になっているのか。 ・マレーシアについて（5 分） 共通語として英語が広く使われているが、なぜマレーシアではマレー語が公用語なのか。 ・日本について（5 分） 日本には「公用語」があるかないか？ 日本にはどんな言語があるか？	英語・日本語を併用する。 意見を出しやすい雰囲気を作る。意見が出ない場合は、グループ内で共有・話す時間をとる。

展開② (15 分) まとめ (10 分)	○ジブンゴトとして考えるために 問：言語を使えるとどんな可能性が広がるか。今日の学びをふまえて考える。 個人で考える（2 分）。ペアで共有（2 分）。 日系パラグアイ人 福岡さんの映像（6 分） 「言語を話せると広がる可能性」について （はじめのみスペイン語）→英語→日本語で聞く ビデオを見た後にペアで共有（5 分） 自身の変容を振り返る。 授業の感想を記述する。 教室全体で共有する。	
---	---	--

使用する資料・教材：

- ・パワーポイント
- ・ワークシート

07 板書計画

PPT を使用

08 評価規準に基づく本時の評価方法

- ①資料から情報を正しく読み取る。
- ②資料で得た情報を、ワークシートにまとめる。情報を他者に正しく伝えることができる。
- ③グループワーク等で自身の意見を述べるができる。他者の意見を聞き、それに対して自身の意見を述べるができる。

09 学校外との連携（※該当のある場合）

- ・新島村博物館、村立新島小学校（ゲストスピーカー等）

10 学びの軌跡（※児童生徒の発言の変化など）

ジグソー法において、「自身が韓国人という設定で、後輩に留学を勧めるなら、日本・パラグアイ・マレーシアの中からどの国を勧めますか？一つ選択してください。」という問いに対して、活動開始前は、半分以上の生徒が日本を選択した。ジグソー法、ディスカッションを通して、最終決定では日本を選んだ生徒は0名になり、パラグアイまたはマレーシアを選択した。

○生徒のアンケートより

【今日の授業を受けて感じたことや考えたことを書いてください。】

言語って大切/何カ国語も話せるのが普通の国があってすごいなと思いました/言語がわかれば世界広がると思いました。/言語を沢山知ること自分の視野や将来のことについて考えられると思った。/マレーシアとか、他の国について知れてよかった/もっと他の国に行ったり、知ったりしていきたい/授業で触れたところやあまり馴染みのない国を英語で読み取ってそれを発表することで国の文化や歴史が自然と

入ってくるのがいいなと感じたし海外に行くことでより世界が広がるとも思った。/公用語いっぱいある国もあれば日本みたいに設定してない国もあったり、ひとつしかなかったりして考え方そこも違うんだなーと思った/沢山の言語に触れることによって、より多くの国の異文化を細かく学ぶことが出来るのは、自分が当たり前だと思っていた事が実は他の国では違ったりと、今まで見えていなかったものを知ることができるので良いなと思いました。/知らない言語がいっぱいある中で、その地に行った時に使わないのはすごくもったいないと思いました。外国人がこんにちは、ありがとう、と言ってくれた時に嬉しいように、自国の言葉使ってくれようとしているのがすごくいいことだと思ったので、どんどん使ってみたり知ろうとするのが大事だと思いました。

【もっと知りたくなったこと、学びたくなったこと、自身の考えの変化を書いてください。】

少しだけ他の言語に興味湧いた/世界で一番喋れる言語が多い国/英語以外の言語について知りたくなった。/日本みたいに公用語が決まっていない国があるのかどうか気になった。/最初は日本がいいのかなと思ったけど、キムに合うと思ったマレーシアに変えました/色んな国の言葉の表現の仕方を知りたい

他の国の色んな情報も知りたくなった！言語とか特産品とか主食とか！/実際のどのくらいの人が英語話せるんだろうと思った/留学とかの場所も目的によって違うなと改めて思った/もっと、他の国の文化や特色を知りたいなと思いました。/他の国の言語すきになる！

【グループ内での話し合いで、クラスメイトのよかったところをあげてください。】

〇〇さんと〇〇さんの発表がわかりやすかった/〇〇さんのキャッサバをイチオシしているところが、熱意が伝わって良かったです。/それぞれが考えていた事が似ていた事がほとんどだったけどしっかりとそこから3人の意見を広げることが出来た/〇〇さんと〇〇さんの地理的な観点から植民地支配が影響しているという考えや、憲法 GHQ などは驚いた/今までで習ったことから答えを出していたのが凄かった/みんな歴史の背景とか経験を使って色んな視点から答えていることがよかった/自分では思いつかなかったこと知れた/〇〇さんのグローバルな視点は私にはとても新鮮な考え方だった。/〇〇さんの異文化に関わるみたいな視点がすごいいいと思いました。

11 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか

「島」という環境で生活している生徒たちに、自分（たち）の当たり前が当たり前でないという認識を常に持ち、他者と関わってほしいという思いでこの題材を扱った。前半の2時間で世界の言語に目を向け、グローバルな視点で考えた視野を持ちつつ、後半では自分たちの地域の方言に注目し学習を進めていくことにより、自分たちのクラス地域の言葉（方言）の存在意義について普段とは異なる視点で物事を考えることの重要性を伝えたかった。

12 苦労した点

①英語の授業では普段は10名の生徒を習熟度別に3展開しており、1クラス2名から4名と少人数体制である。授業実践当日が10名で行う初めての授業であったため、どのような反応になるのかが想像ができなかった点。

②ジグソー法を英語で行うにあたり、ゼロから資料を作る点に苦労した。そのため、まずは日本語で資料を作成した。生成AIを活用し、「CEFR A1レベルの英語に翻訳して」と指示をし、できた英文を本校のJET2名と表現や語彙等を書きかえていった。

③後半の方言についてゲストスピーカーの依頼に時間がかかってしまい、年内の実施が難しくなった点。年度末の3月に後半の授業2時間を行う予定である。

④問いの設定

扱うテーマについて「正解のない問い」の設定することが難しかった。同じ授業実践グループのメンバーとアイデアを出しながら作成した。

13 改善点

①英語の使用について

普段、英語の授業でディスカッションなどを行っていないため、生徒間の対話はほぼ日本語で行った。今後、生徒同士が英語でディスカッションできるように少しずつ発話する機会を設け、改善していきたい。

②ジグソー法のテーマについて

授業後の協議会でも話題に出たことであるが、ジグソーのテーマを絞ったほうがよかったのか、一般的な情報のみでよかったのか、という点である。今後、ジグソー法を授業で実践していく中で、改善していきたい。

14 成果が出た点

①グループ活動

今回は言語について多角的に考えることがねらいであったこともあり、2学年全員で行った。普段の授業では行うことが難しいグループ活動を取り入れることにより、生徒間で活発な話内の場を設けることができた。普段の授業では見られない生徒の様子や、活発な意見交換があり、教員にとっても良い刺激になった。

②多角的な視点で考える問いの設定

「正解のない問い」の設定をしたことにより、生徒が今までの人生での体験や学びを総合的に活用して考え、他の生徒に伝えることができていた点。生徒には社会や国語といった他教科での学びも活用していた。

③生成AIの活用

今回、ジグソー資料の作成やパワーポイントの作成で生成AI（Chat GPT）を活用した。英語科教員にとってAIを活用することは教材作成においてとても有効であると実感した。今後も活用していきたい。

15 自由記述

授業実践について

生徒たちの振り返りのコメントから英語以外の言語や他の国の文化・特色を知りたいなど、「さらに知りたくなったこと」も出てきたので、今後の授業づくりに取り入れたい。また、教科・校種横断的に教育活動ができるような環境づくりを新島の先生方と一緒に整えていきたい。

教師海外研修全体について

本研修では事前研修から事後研修に至るまで、授業実践のことを考えることになる。今まで、一つの授業にこれほど多くの時間を費やしたことがなかった。今回の授業を組み立てるうえで、他の参加者や本校の教員だけでなく、教員以外の方々からも意見やアイデアをいただいた。その過程を経て、今後も授業を行う上で心にとめておきたいと思ったことは、「授業者が伝えたいことを、自身の言葉で伝える。そうすることによって、それぞれの生徒が何らかのメッセージを受け取り、考え、行動する。」というこ

とである。今回の授業実践により、この抽象的なことを体感できた。今後も自身が伝えたいことを念頭に置いて授業や教育活動を行っていきたい。

また、本研修での学びの一つに「自分の考えや気持ちを言語化することの難しさと大切さ」をあげる。見たもの、聞いたもの、感じたことを自分の中で消化し、他者に的確に表現することはとても難しいが、自分や他者を理解するためには必須であると考えた。事前研修では、私自身を含め、参加者は吸収した新しい情報を消化しきれず、さらに、それらに対して自分の考えを的確に表現することができず、終始モヤモヤしていた。パラグアイでの研修中はほぼ毎日振り返りの時間があり、そこで私たちは少しずつ自分の感情などを言語化することができるようになってきた。毎日見学先で同じものを見ているが、見る人によりとらえ方や感じ方は異なる。そのことを共有し、伝える時間は私の中で貴重な学びのプロセスであった。事後研修になると言語化することにも慣れてきたようで、言語化する楽しさ（＝ワクワク）も増えた。今後も本研修で得たことを生かし、自身と生徒の学びを発展させていきたい。